

開発パートナーとの連携強化

○IFAD

IFADプロジェクトへのSHEP導入（レソト）
IFADスタッフ向けSHEP研修の実施（ブルキナ）
JICA課題別研修へのIFADスタッフ参加

○ササカワアフリカ財団（SAA）

JICA専門家が活動できない地域でのSHEP展開

- ①マリ ②ナイジェリア地方州

○Global Forum for Rural Advisory等での

SHEP紹介

「2019アフリカ農業普及Week」でのプレゼン、
「New Extension Kit」へのSHEP掲載

JICA事業における展開

○在外補完研修実施国の拡大

ケニア・マラウイに加えセネガル、ジンバブエ

○園芸作物以外の分野でのSHEP活用

- ・ナミビア（畜産）ネパール（灌漑）

○SHEPトレーナー認定制度の開発

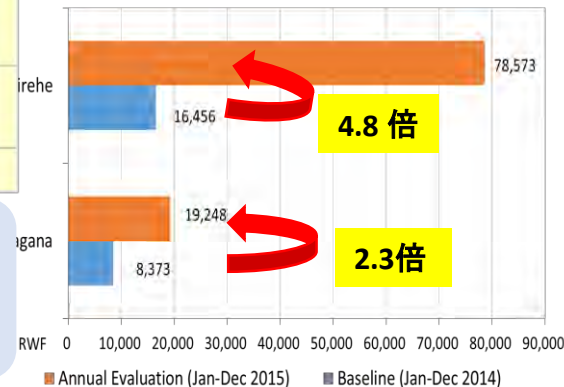
- ・認定テスト開発中

○アフリカから他地域へのSHEP展開

- ・実施中の課題別研修（4コース）に加え、中南米、南アジアSHEPコース開設準備中
- ・エジプトにて、アラブ圏対象の国際ワークショップ開催（2020年3月予定）

SHEP実施後の成果

ルワンダ対象地域での収入向上
＜1年間で2.3倍～4.8倍に＞

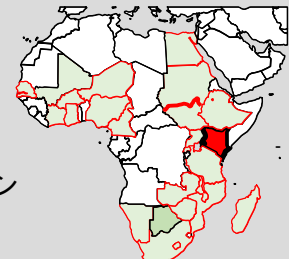


ケニア対象農家の
農業資材への
投資額増加
＜1.5年で80% up＞

目標：100万人の農民へ

- アフリカ25か国で展開中
- 209人(英/仏語圏)の研修員がSHEPの本邦研修受講
- 9,805人の行政官、指導者がSHEPアプローチを習得
- 延べ11万45人の農民がSHEPアプローチを学習、実践

ケニア、エチオピア、セネガル、エジプト
ニジェール、カメルーン、ブルキナファソ、
ガーナ、コートジボアール、ナイジェリア、
南スーダン、スーダン、ウガンダ、ルワン
ダ、ザンビア、タンザニア、マラウイ、ジン
バブエ、モザンビーク、南アフリカ、レソ
ト、エスワティニ、マダガスカル、ナミビ
ア、マリ



(2019年9月時点)

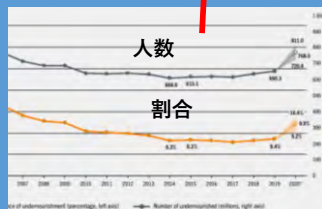
③食と栄養のアフリカイニシアティブ (IFNA) (東京栄養サミット2021・JICAの栄養改善の推進)

東京栄養(N4G)サミット (2021年12月)

東京栄養宣言 (N4G成果文書)

- 健康で生産的な生活には良好な栄養が必要。誰一人取り残さない。
- 2030年までに栄養不良を終わらせるため、団結して更なる行動を取る。
(健康、食、強靱性等)
- 今後3年間で3,000億円以上の支援

- COVID19で栄養不良人口の数、割合が急増



(出典:FAO)

JICA栄養宣言

栄養をすべての人々へ

～人間の安全保障のための10箇条の約束～

- 東京栄養サミットで発表。
- JICAの栄養改善への決意を示したもの。栄養改善を通じ、人間の安全保障の実現に貢献。
- 全世界を対象。アフリカは重点地域。
- 栄養の二重不可、途上国の能力強化と主体性、各セクターの栄養センシティブ化、マルチセクトラル、日本の経験の活用、多様な支援ツールや国内関係者との協働、国際パートナーとの連携を重視。

母子栄養の改善

子どもの死因や生涯の健康に影響する、「最初の1000日」への取り組み

胎児期から満2歳までの「最初の1000日」の低栄養は、子どもの死因となるばかりでなく、生涯にわたる健康や疾病のリスクへの影響が最も大きい。JICAは母子の栄養改善を中心とした保健サービスの提供に注力。

生活習慣病 (NCDs) の要因、過栄養への対策

過栄養は食事に関連する生活習慣病の主要リスクの一つ。特定の食べ物の過剰摂取やバランスの悪い食事を改善するためには、母子への食育や食事指導、栄養指導が必要。幼少時から健康的な食習慣を身につけられるよう取り組む

食と栄養のアフリカ・イニシアティブ (IFNA)

- **TICAD VI(2016年)**: アフリカでの食料・栄養政策の現場での実践の促進を目的に、JICAとアフリカ開発銀行 (AUDA-NEPAD) が設立。現在、国際機関等10機関が協力。
- **TICAD7(2019年)**: 「**IFNA横浜宣言2019**」(2億人の子どもの栄養改善に向けたIFNAの全アフリカ展開) を採択。
- JICAは、食と農の観点から栄養関連人材の育成、現場レベルの栄養改善事業の実施を推進。



* IFNA: Initiative for Food and Nutrition Security in Africa